



イベント
フォトギャラリー

わたしたちのまちの話題

11月13日 西原高校男女バレーボール部
アベック優勝！いざ全国へ！！



第76回全日本バレーボール高等学校選手権大会沖縄県代表決定戦でアベック優勝した西原高校男女バレーボール部が崎原町長に優勝報告を行いました。

男子キャプテンの平良晟也さんは、「優勝し2連覇できた。全国大会がこのチームで最後の大会。すべてを出し切ってベスト8を目指します」と挨拶し、女子キャプテンの大嶺若日子さんは「たくさんの応援があって優勝できた。全国大会では1勝でも多く勝てるよう頑張ります」と意気込みを語りました。春高バレーは年明け1月4日から東京都で開催されます。

ちばりよ～西原高校！

11月5日 若者躍動！ちむどんどん！
さわふじ青年エイサー祭り



町内の青年会が一
堂に集いエイサー演
舞をする「第17回さ
わふじ青年エイサー
祭り」(同実行委員
会主催)が西原さわ
ふじマルシェで開催

されました。実行委員長の知念直樹さんは「町の伝統をしっかりと私たちの世代が継承し、西原町を盛り上げていきたい。」とあいさつしました。

若者による気迫あふれる演舞に、会場は多くの観客で埋め尽くされました。また、ハワイ・マウイ島の山火事による被災支援のため、チャリティー募金活動が行われました。

参加団体

- ・創作エイサー桜輝
- ・小那覇子ども会
- ・棚原弥勒太鼓
- ・さわりんダンス
- ・内間団地青年会
- ・小那覇青年会
- ・小波津団地青年会
- ・内間自治会
- ・兼久青年会

10月21日・22日 ブラジル西原町人会が創立50周年式典を開催



ブラジル西原町人会(新里明マルコス会長)創立50周年式典及び祝賀会が、ブラジルのサンパウロ市で開催され、町から崎原盛秀町長と大城純孝議長が参列しました。

会場には、ペルーやアルゼンチンの西原町人会代表者も出席し、約200名の参加者で盛大に50周年を祝いました。

町からは、町人会へお祝儀10万円と記念品として町マスコットのさわりんがプリントされたオリジナルハッピー10枚が贈呈しました。また、現地の80歳以上の高齢者の方々に、それぞれ感謝状を贈りました。崎原町長と大城議長は、式典翌日には、サンパウロから900km離れたカンポ・グランデ市に移動し、同市町人会の皆さんとも交流を深めました。帰国した崎原町長は「80歳以上の方々は日本語は話せないが、ウチナー口は流ちょうに話せた。遠く離れたブラジルだがウチナーンチュの思いはしっかり受け継がれていることに感動した」と感想を述べていました。

11月3日 小・中学校ビーチバレーボール大会



第14回西原町小・中学生ビーチバレーボール大会が西原マリナーパークきらきらビーチで開催されました。

秋晴れの空のもと、20チーム140人余りが参加し熱戦を繰り広げました。また、地元の沖縄森永乳業(株)から参加者に飲み物の提供がありました。

大会結果

わらばーの部(小学4年生以下)	西原クラブB
うーまーの部(小学5年生以上)	西原クラブA
ちゅーさんの部(中学生女子)	マントヒヒ
ちゅーばーの部(中学生男子)	中頭選抜N

10月27日 恒久平和を願う 戦没者追悼式



日露戦争から沖縄戦にかけ犠牲になった御霊のご冥福と恒久平和を願う「西原町戦没者追悼式」が西原の塔で行われました。町内をはじめ県外からご遺族や関係者が参列し、戦没者に祈りを捧げ平和を願いました。

式では崎原町長が「悲惨な沖縄戦の教訓を正しく次世代に引き継いでいき、恒久平和の実現を誓います」と追悼の言葉を述べました。



地域の文化・芸能の継承発展

現在、琉球王府時代から続く幸地、棚原、翁長、呉屋、津花波、小橋川、内間、嘉手苅、小那覇、我謝、桃原、小波津の集落では、年中行事として、綱引きや村遊びなどが継承されています。綱引きは、綱作りを通して綱のしくみや作り方などを先輩方から学び伝統行事を継承するとともに、地域住民の交流の場にもなっています。

また、綱引きの花形であり、勇ましく躍動しながら演舞する旗頭は、士気を高め、見る人をひきつけます。これらの旗頭は、「西原まつり」の演目の最後を飾る「旗頭ショー」にて、多くの来場者の前で、地域のシンボリック的存在として披露されています。旗頭ショーなどの演舞は、地域

の伝統文化に自信と誇りをもち、地域に愛着が生まれ、後継者の育成にも繋がっており、現世代の貴重な体験の場となっています。また、毎年あるいは数年ごとに行われる村遊びでは、舞踊や獅子舞、組踊などが演じられ、地域だけでなく、町の祭りや「全島獅子舞フェスティバル」、「国立劇場おきなわ」での出演など、披露する場が広がっています。

このような中で、古集落以外の屋取集落である兼久や新興住宅・団地である坂田ハイイツ、県営内間団地、小波津団地では、その地域で新たに旗頭を製作し、地域の行事等で演じられています。また、町外からエイサーを習って地域の新しい文化の創出に取り組みしており、地域の行事や「西原まつり」、「旗頭フェスタ」、「さわふじ青年エイサー祭り」への出演など、現世代で活動の場を広げています。その他、町の古集落の中でも伝統文化・芸能の宝庫である棚原では、「棚原弥勒太鼓」を創り出し、祭りやイベントへの出

演のほか、「棚原四年十二年まーるあしび」での演舞など、地域に根差した活動も行っています。このように、古集落では、先人たちが地域の文化を築き、後世に伝統行事として継承してきたからこそ、現世代は、年中行事やイベント等へ出演して貴重な体験をすることができるといえます。

このことから、先人たちに感謝しながら、伝統文化を継承し、次世代へ伝えていって欲しいと願っています。古集落以外の地域や棚原弥勒太鼓などの創作芸能も、新たな地域芸能を築いた現世代が次世代へ継承することで、将来は地域に根差した伝統文化となりえます。本町は「西原町まちづくり基本条例」の中で、「先人が築いてきた伝統文化を継承発展させるとともに創造していくことのできるまちづくりに努める」と定めています。



西原まつりの旗頭ショー



さわふじ青年エイサー祭り

演など、現世代で活動の場を広げています。その他、町の古集落の中でも伝統文化・芸能の宝庫である棚原では、「棚原弥勒太鼓」を創り出し、祭りやイベントへの出

地域の皆さんは、文化活動を通して「当該条例の将来像である「文教のまち西原」のまちづくりを牽引し、町の文化振興に大きく貢献しています。地域の文化・芸能は地域を活性化する宝です。今後とも地域の文化・芸能が継承され益々活動が発展することを願っています。

お問い合わせ 文化課 文化財係 ☎944-4998